

さいたま市総合振興計画審議会 第1部会（第4回） 会議録

日時	平成25年6月20日（木）午後2時00分～午後4時20分
場所	市役所第二別館 第1会議室
出席者 （敬称略）	〔委員〕計7名 石関精三／猪瀬良一／上田彰一郎／久野美和子／作山康 丸山繁子／森本章倫 〔事務局〕さいたま市 政策企画部：江口部長 企画調整課：松井課長／小島課長補佐／松尾係長／富田主査／ 南主査／鈴木主任 他、関係局職員 〔傍聴者〕0名
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 議題 （1）分野別計画（原案）について（環境・アメニティ） （2）分野別計画（原案）について（都市基盤・交通） （3）分野別計画（原案）について（産業・経済） （4）（仮称）重点戦略に関する意見交換 （5）その他 4 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	・ 次第 ・ 席次 ・ 資料1－1 分野別計画（原案）【環境・アメニティ】 ・ 資料1－2 審議会第1部会 意見整理表（環境・アメニティ分野） ・ 資料2－1 分野別計画（原案）【都市基盤・交通】 ・ 資料2－2 審議会第1部会 意見整理表（都市基盤・交通分野） ・ 資料3－1 分野別計画（原案）【産業・経済】 ・ 資料3－2 審議会第1部会 意見整理表（産業・経済分野） ・ 資料4 （仮称）重点戦略の考え方とテーマイメージ
問い合わせ先	政策局 政策企画部 企画調整課 電話 048-829-1035

1 開会

2 定足数の報告

○司会 さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本日の出席委員は、委員総数11名に対し、現在のところ7名となっており、定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

また、秋元委員、中邨委員、茂木委員、吉田委員につきましては、本日、ご都合により欠席との連絡が入っておりますので、ご報告申し上げます。

現在のところ、傍聴希望者と報道関係者はいらっしゃいません。

○部会長 はじめに、会議の公開と傍聴の許可について諮りたいと思います。本日は、傍聴者がいらっしゃいませんが、会議は公開としたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○部会長 ご異議がないようですので、本日の会議は公開としたいと思います。

3 議題

(1) 分野別計画(原案)について(環境・アメニティ)

○部会長 本日は、第2回と第3回で審議しました分野別計画(素案)について原案の取りまとめに向けた審議を行いたいと思います。

これまでの部会の審議で委員の皆様から出された様々な意見について、事務局で各意見の整理を行い、それらの意見を基にして分野別計画の修正作業を行っていただきました。

これから、「環境・アメニティ」「都市基盤・交通」「産業・経済」の3つの分野について、計画の修正点などを事務局より説明していただき、討議に入りたいと思います。

はじめに、「環境・アメニティ」の分野に関して事務局から説明をお願いします。

(資料1-1及び資料1-2に基づき、第1回から第3回までの部会の主な意見と、素案に対する修正の内容について事務局から説明)

○部会長 ありがとうございます。基本計画ですので、大きな視点で議論していただ

ればと思います。ただいまの説明の内容につきまして、ご意見やご質問はございますか。

前回から文章をずいぶんと修正していただき分かりやすくなりました。なお、成果目標については、調整部会で議論させていただきたいと思います。

○丸山委員 用語の例示などが付いて、一般市民にも分かりやすくなりました。ただ、最終的には、いかに市民に参加してもらうかが大事で、そのために、どのようなところに力点を置いて舵をとるのかを感じ取れるような文章があると良いと思います。市から発信ばかりしても理解できない市民は多いので、この点について、調整部会において他の部会とも調整させていただきたいと思います。

○部会長 本日の最後の議題は重点戦略についてで、まさに今のお話は重点戦略に関わることですので、そちらで議論したいと思います。

○猪瀬委員 全体的に、計画の主体が良く分かりません。誰と協働するのがあいまいな気がします。それから、3Rや2Rと言われても良く分からないので、再利用などと日本語で言った方が分かりやすいと思います。用語に行政の気遣いが感じられると良いと思います。

○部会長 3Rや2Rという言葉は徐々に使われるようになっていますが、最終的に添付される用語解説を参考にさせていただければ良いと思います。

主体については、基本的には、行政計画なので行政中心ですが、今回の全体の構成が市民や事業者と一緒に進めることになっていきますので、市民や事業者の中の具体的な主体までは分かりませんが、やりながら探していくということで、まずは、やるぞと打ち上げることが必要なのだろうと理解しています。

私の意見としては、「環境先進都市」は目玉になりそうですので、重点戦略で強調していただけると良いと思います。

○猪瀬委員 「里やま」という表現が追加されて良かったと思います。

○部会長 ところで「里やま」の「やま」はなぜ平仮名なのですか。

○環境総務課 市の「環境基本計画」と「緑の基本計画」にあります「里やま」の用語解説を読み上げますと、「自然林の破壊により人為的に形成され、維持管理されてきた人里の二次林で、関東ではコナラやクヌギを主とする雑木林、あるいは二次林とその周辺を合わせた地域景観のこと」と定義されています。環境省では、奥山と都市の

間を「里山」と定義しているようですが、さいたま市にはそういう部分がありませんので、以前より二次林とその周辺を合わせた地域景観をさいたま市では「里やま」と、平仮名「やま」で表現しているものと考えております。

○**部会長** 市独自の表記ということですが、日本全国ほとんどが二次林だと思いますし、漢字表記に慣れているので、平仮名では分かりにくいと思いますが、意味は理解しました。

○**森本委員** 成果目標で気になったことですが、施策1の成果目標「市民一人あたりの温室効果ガス排出量」の平成32年度の目標値は3.19t-CO₂となっていますが、何か基準があって算出しているものなのですか。あるいは、既存の市の計画に則っているものなのですか。

○**事務局** ご指摘の目標値は、本市の「地球温暖化対策実行計画」で示している数値になります。

○**森本委員** その数値は、他市に比べてかなり頑張っている数値なのかどうか気になりました。環境先進都市を目指すからには、先進的な目標値を掲げた方が良いと思います。

○**事務局** 他市との比較はしていませんが、平成21年度に比べて23%減ということで、感覚的には頑張っている数値だと思います。

○**部会長** これから配置するグラフや図表についても、成果目標と組み合わせて考えなければならぬと思います。

○**副部会長** 施策に掲載して良いものかどうか分かりませんが、現状と課題から施策展開まで、一目で施策の内容すべてが分かるような図表があると良いと思います。

○**部会長** 総合振興計画は議会の議決文書でもあって、悩ましいところですが、あまり詳細な図表を掲載すると、数字が変わるたびに議決を経なければならないので、基本は文章で表現することにして、グラフなどを用いた解説書のようなものが別途あると良いかもしれません。

○**副部会長** 参考資料に図表などを掲載することも考えられます。

○**部会長** ただいまのご意見は、調整部会で議論したいと思います。

○**上田委員** 施策3のタイトルに「人と自然が共生する緑豊かな美しい都市の創造」とありますが、「美しい」という尺度が分かりません。雑草が生えたままになっている状態を美しいとは言えないと思うので、「人に喜ばれる美しい都市の創造」などとして、誰が「美しい」と感じるのか付け加えた方が分かりやすいと感じます。

それから、施策2の循環型都市に関連して、現在多くの工場では、工業用水を循環して使用しています。市から水道水や工業用水を購入せず、施設内でまかなうといったように、極端に循環や再生を可能にすると、市の収入への影響が懸念されますので、調整部会でも協議していただければと思います。

○**部会長** 皆さんから意見が出ましたので、次の分野に移りたいと思います。それでは、都市基盤・交通の分野について事務局から説明をお願いします。

(2) 分野別計画（原案）について（都市基盤・交通）

（資料2-1及び資料2-2に基づき、第1回から第3回までの部会の主な意見と、素案に対する修正の内容について事務局から説明）

○**部会長** ありがとうございます。ただいまの説明の内容につきまして、ご意見やご質問はございますか。

○**森本委員** 先ほど環境・アメニティの分野の施策1の現状と課題に、本市は運輸部門や民生部門の二酸化炭素排出量が多くなっているとの記載があって、成果目標は他の計画から引用しているとの説明がありました。その計画には運輸部門の数値も当然あるはずですので、運輸部門の平成32年度の目標値もあってしかるべきだと思います。他の計画から目標値を転載すれば、市民アンケート調査だけでない成果目標を設定できるのではないのでしょうか。調整部会でも議論いただければと思います。

○**部会長** この分野については、重点戦略の議題のところで色々と話せば良いと思いますが、私としては、さいたま市は都市計画道路の整備率は低いですが、高速道路が非常に有効で、埼玉高速鉄道の早期延伸を戦略とすれば、防災や経済面で非常に有効だと感じています。

また、施策2については、現行計画と比べて、都心と副都心の説明が少なくて分かりづらいので、最終的に検討していただきたいと思います。

他に意見などいかがですか。

○**森本委員** コンパクトなまちづくりを計画の目標の一つとしている中で、鉄道駅周辺のまちづくりの記載が弱い気がします。公共交通指向型開発というものが、もう少し見えるように、都心と副都心の駅だけでなく多様な駅の周辺のまちづくりをきちんと行うことによって、公共交通軸に沿ったコンパクトなまちづくりをすることが大きな流れと理解しています。都市計画マスタープランもそうした流れであって、そのことを読み取れる場所があまり無いようですが、いかがでしょうか。

○**事務局** 部会長からのご質問について、都心、副都心に関しては、第1回部会でお示ししました「将来都市構造の基本的な考え方」の部分に記載しています。ただいま審議いただいています分野別計画の部分は、施策ごとに見開き1ページで構成したいと考えているため、文章量に限りがあり、そのようにしたところです。

また、第2回の意見で、都心、副都心という名称よりも、「○○なまち大宮」などといった通称を付けた方が良いとの意見がありました。これにつきましては、大宮や浦和は色々な面で変化していて、現時点で通称を付けることは難しいため、今後の課題として、意見を分類させていただきました。

森本委員のご意見につきましては、確かに、都市構造の部分では、鉄道駅周辺を拠点と位置づけて今後事業を進めていくことを記載しましたが、分野別計画の部分でここまで記載できるかについては、検討させていただきたいと思います。

○**猪瀬委員** この都市基盤の分野で、情報インフラのことが触れられていません。

○**部会長** 施策1の施策展開に、ICTについては記述されていますが、情報発信だけで捉えられているのは物足りないと感じています。計画の目標期間である7年先にはICTはもっと幅広く捉えられていると思います。

○**猪瀬委員** 近所の公園に数十人の母子が自転車で集まって来ることがあるのですが、ソーシャルネットワークサービスを使って、日頃から交流しているようです。災害時やバスの到着時間確認なども含めて、市民はICTをもっと有効に使っていると思います。

○**部会長** 市民の情報活用を促進するだけでなく、防災や交通など幅広い視点で捉えて、情報インフラを整備するという記述になると良いでしょう。

○**副部会長** ICTについては、基盤整備に加え、機能性も考え合わせて、より複合的に見ていくと良いと思います。

○**部会長** 先ほどの森本委員の意見に戻りますが、コンパクトなまちづくりについては、施策3の交通の分野で記載がありますが、施策1の市街地の形成の部分で言及しておく必要があるのではないのでしょうか。ですから、施策1の施策展開は全体的に、低炭素なまちづくりの意味合いをもっと表せると良いと思います。

○**森本委員** 例えば、施策1の施策展開(1)のタイトルを、「コンパクトで質の高い市街地の形成」などとすると強調できますので、文言を工夫いただきたいと思います。

○**部会長** 同じく施策展開(1)のタイトルは弱い印象があると思いますので、再検討していただけますか。

○**事務局** 承知いたしました。

○**部会長** それでは、産業・経済の分野について事務局から説明をお願いします。

(3) 分野別計画(原案)について(産業・経済)

(資料3-1及び資料3-2に基づき、第1回から第3回までの部会の主な意見と、素案に対する修正の内容について事務局から説明)

○**部会長** ありがとうございます。ただいまの説明の内容につきまして、ご意見やご質問はございますか。

○**副部会長** 前回の意見をたくさん取り入れ、ブラッシュアップしていただいたと思います。グローバル化についてはうまく入れていただきました。

今後、東南アジアなどと組んでも、日本が強くあるためには、産学官連携による技術研究などを進め、常に市民や産業界のニーズに応えるものを生み出して、それらを集積し、市場を獲得して、国際戦略を立てていくというような意味で、具体的に言いますと、施策2の施策展開(2)には、産業の変革やイノベーションを生み出す方向性を明示していただきたいと思います。そうしなければ、ものづくり企業は生き残れない状況になっています。

それから、ものづくりだけでなく、サービスやクオリティに関して、これは観光にあたると思いますが、施策展開(4)には、観光振興より、地域とともに交流やにぎわいづくりに取り組むというニュアンスを出せると良いと思います。

○**部会長** 産学官連携については技術提携といった表記にとどまっているのが残念です。県内ではある大学の一学部が東京に戻ってしまった例もあって、市内には技術系

の大学が非常に多いので、この計画で、もっと連携を強くアピールしなければ、東京に戻っても良いと考えていると受け取られてしまうでしょう。

それから、施策2の(2)次世代を担う新産業の育成について、「環境・エネルギー分野や医療・介護分野に関連する産業の育成」とありますが、これ以外にも、次世代を担う新産業は考えられるのではないのでしょうか。例えば、東京のバックアップ機能を位置づけたり、コンテンツ産業やクリエイティブ産業を育てていくことが考えられます。NACK5がFMラジオのナンバーワンとなったように、民間任せではなく、連携して育てていく部分をもっとあっても良いのではないのでしょうか。もう少し可能性を膨らませることのできる記述を入れておくと良いと思います。

○石関委員 農業については、今後、TPP交渉によっては、外国産野菜などが流入してきますので、次世代の担い手育成を考えていかなければなりません。

また、さいたま市のブランドとしては、どういうものがあるのかを具体的に表してはいかがでしょうか。

○部会長 農業の担い手育成については、施策1の施策展開「(3)都市農業の振興」の部分で一応言及されています。

ブランドについては、ブランドをつくるという意気込みを打ち出していて、まだ実際の物はできていないため、具体的には記述できないのだろうと思います。

○副部会長 約3～4年前から、さいたま市ではテクニカルブランド企業を認証していて、PR効果は大きなものとなっており、具体的な支援もしますので、ものづくり企業のブランド化はある程度できていると思います。

また、これまで部会長が何度もおっしゃられたように、さいたま市の防災面の強さは市としての売りになると思っています。

それから、さいたま市の立地の良さはブランドになり得ると思います。日本全国の真ん中で、どの地域とも交流ができるオープンな地域で、そうした特色を生かしたものが生まれる可能性があると思います。

○部会長 立地の優位性を生かせば、色々な発想が出てくるでしょう。例えば戸田市は、東京に近接しているため都庁や有名宅配便業者、百貨店などの倉庫が多くあります。さいたま市の場合は、従来の物流拠点とは異なり、都市型や24時間対応などというように、高速道路を活用して、北関東や北陸の拠点になり得るでしょう。

○副部会長 そこにICTも絡んでくるでしょう。さいたま市は、他地域に比べて企業立地が非常に進んでいますが、なぜかと言いますと、大学が多く、人材が揃っていて、

技術があり、物流が良くオープン性があるということで、企業にとっては最適なのです。交通網や情報網、人の交流の関係で、他地域との連携が図りやすいのです。

こうしたことから、さいたま新都心と浦和などの拠点化について、市内のコミュニティや生活、産業の拠点化をどうするかということと、市外との関係での拠点化をどうするかということを考えて、工夫できると非常に面白いと思いました。

○部会長 他にご意見などございますか。

○猪瀬委員 農業の後継者問題については、農地が世襲になっていることが問題で、所有と利用を分けなければ進みません。農作物をブランド化するにも、腕のある農業者などが利用しやすくする必要があります。農地の利用に関してアイデアを持っている人はたくさんいますので、今後、市県国がどのように仕分けていくかが問題で、整理しなければならない時期に来ていると思います。

○部会長 地方公共団体ができることには限界があつて、悩ましいところですが、これまでの議論であつたように、地産地消をライフスタイルの中で大事にするなど、市民の認識を動かして、国が後から付いてくるといった方法しかできないのかもしれませんが、もっと本気で取り組むために、市民が支えていく部分を同時にやっていくということで、「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」では「買い物は、地元の商店街・農産物直売所などで、地場産品・製造品を購入するよう心掛ける」との記述がありますが、もう少し踏み込んで、例えば、そういう市のライフスタイルを誇りにしようといったことを記述できると良いと思います。

○副部会長 農業改革が進み、法人化や大規模化が可能になっている中で、農業地域ではない本市の農業の特色、強み、面白さをどこまで出せるかが課題だと思っています。農業分野はどちらかと言うと旧来の規制に縛られた考え方が多いのですが、改革の波をいち早くつかんで先行事例をつくることのできる時代ですので、本市で新たな展開を考えている人などの状況を教えていただければ、意見をお伝えしたいと思っています。

○石關委員 現実には集約化はなかなか進みません。

○部会長 これまでの議論で出たことで、農業は大事ですが、さいたま市の場合、農業だけで支えていくのは厳しいので、防災機能など複合的な機能の中で、市の農業の価値を表現する必要があるということでした。産業・経済の分野だけでなく、他の分野

でも農地の大事さについて記述することで、さいたま市の農地の付加価値を色んな視点で見つけていくことができるのではないのでしょうか。

○副部長 具体的な施策に関わることであるので考え方としてお伝えしますが、大都市に近い農地ですから、防災機能に加えて、農業をやりたい若者の受け入れも考えられて、新しい農業システムを地元とともに作っていくことなど、この計画でどこまで書けるか分かりませんが、農業に対するイメージや考え方の基本路線を書いておくとも良いかもしれません。

○部長 本日は様々なご意見をいただきましたが、私と副部長と事務局で必要な修正をする予定ですが、意見の修正の仕方についてはお任せいただきたいと思います。それでは、他にご意見がないようですので、続いて、(仮称)重点戦略について事務局から説明をお願いします。

(4) (仮称)重点戦略に関する意見交換

(資料4に基づき、重点戦略の考え方とテーマイメージについて事務局から説明)

○部長 ありがとうございます。この重点戦略については、各部会から意見をいただいて事務局で整理し、その後、調整部会で検討することになりますので、今回は忌憚らないご意見をお願いいたします。基本計画は総花的になりやすいので、いかにテーマ性を持ってやっていくかは計画の推進力として非常に大事です。

重点戦略のテーマイメージの1つめは、人口減少対策としての産業と交流で、2つめは高齢化対応、3つめは少子化対応、4つめは安全安心となっています。2～4つめは市民意識調査で関心の高いもので、1つめは市にとって重要なまちづくり戦略です。私としては、環境共生や低炭素について、どういう戦略を取るのか、言葉が抜けていると感じますが、まずは皆さんから自由にご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○森本委員 質問ですが、5つの重点戦略について提案すれば良いのですか。将来都市像は決まっていて、7つの分野に対応するように、重点戦略の文言などを議論すれば良いのでしょうか。

○部長 重点戦略の数はいくつでも構わなくて、7つの分野について、どのような戦略を持って、将来都市像を描いていくかという議論を経た結果として、数は決まってくると思います。私が気になるのは、戦略名が基本方針のようで、戦略の言葉になっていないことです。本気で取り組むことを示すようなキャッチコピーが必要ではない

でしょうか。

○**石關委員** 戦略2と戦略3は一本化した方が良いのではないのでしょうか。高齢者と子どもが元気で活気あるまちづくりなどを掲げて、いくつか戦略をつくれれば良いと思います。

○**部会長** 少子化対策と高齢化対策について、それぞれを分けて書くことも、一緒に書くことも、どちらも戦略としてあり得ると思います。

○**石關委員** 観光についてはどこに入るのでしょうか。

○**部会長** 観光については、戦略1に含まれていますが、もっと前面に出すという戦略もあると思います。例えば、アベノミクスの三本の矢と言えば、戦略らしくなり注目を集めることになります。

もう一つ私が気になるのは、分野横断的なテーマでなければいけないのかということです。例えば従来の緑行政のように、単独のテーマでも戦略になるものならば掲載しても良いのではないのでしょうか。

○**副部会長** 重点戦略の文言は、優しく柔らかい印象を受けますが、市民にアピールするような言葉の使い方をして目的としているのでしょうか。例えば、戦略1を硬い言葉で言い換えれば、企業集積や地域コミュニティ、都市基盤などとなりますが、ここではあえて、行政も市民も一緒に取り組んでいくという意向があって、こうした言葉遣いをしているのでしょうか。もう少し尖ったようなキーワードを入れても良いと感じています。

○**事務局** 率直に言って、今回お示した重点戦略は仮のものであって、テーマイメージはあまり練れていませんので、出来が良いとは思っていません。おっしゃる通り、市民とともに取り組むことは非常に重要な視点で、一方、ものによっては行政が突出して取り組まねばならないこともあるかもしれません。ただ、目標としては共有できる表現が必要だろうと思います。それから、尖ったキャッチフレーズでかつ市民と行政が共有できるキャッチフレーズは、重点にほしいと思っています。例えば、自転車をキーワードとして特化し、自転車で暮らすまちを掲げれば、コンパクトなまちづくり、低炭素、地産地消などにつなげて考えることができます。このように、分かりやすいキーワードから取組をつなげることも考えられますし、一方、ものによっては専門用語を掲げて強力に推進していくことも考えられます。どちらにするか決めたわけではありませんが、言葉として伝わって共有したいという気持ちは持っています。

○**森本委員** 重点戦略の文言を見る限り、私が住んでいるまちでも当てはまるものだと感じていて、それはどのまちでもやらなければならないことを掲げているからです。将来都市像には、東日本の交流拠点、見沼の緑など、さいたま市らしさを感じられる表現がありますが、重点戦略にはまったくないことが気になります。せめて重点戦略の5つ目は、さいたま市らしさをしっかりと感じられるものがほしいと思います。

○**猪瀬委員** 農協関係の仕事をした時に、「自然はおいしい」というキャッチコピーを考えましたが、それは、農協はダサいけど信用できるという印象があったからです。さいたま市も同様に、ダサいけど信用できる、安心できるというように、開き直った方がよいと思います。普段、知人に市内を案内する時、どこにでもあるような街並みと言われますが、見沼田圃に行くとき驚かれることが多いのです。どこにでもあるようなまちづくりでは面白くなくて、何か良いキャッチコピーを才能のある人に考えてもらおうとよいと思います。

○**部会長** 本日議論していることは、キャッチコピーとテーマという二つのことがあって、テーマについては、押さえておくべきテーマは何か、また特に強調すべきことは何かといった議論があるでしょう。これはキャッチコピーによって印象が変わるので、キャッチコピーづくりをプロに任せようといった提案も考えられます。

○**副部会長** キャッチコピーの議論は後で熟考するとして、この地域が重点を置くべきテーマとして外せないのは、これまで何度も意見が出て、市ですでに取り組みされていることでもあります。防災の拠点日本一にしようということでしょう。

もう一つは、次世代を見据えたEVやスマートハウスなどの既存の取組を生かした新しいコミュニティづくりを前面に出したいと思います。

○**部会長** 例えば、「さいたまコミュニティ」、「さいたまスタイル」をキャッチコピーとすると、子育てのしやすさ、高齢者の活力、地産地消、就労近接などが含まれますので、このように総括的な言葉で表現しても良いかもしれません。このように、さいたまのライフスタイルを強調して、さいたまで暮らす面白さや良さを出すことができれば、他地域との違いが出てくると思います。

それから、最近、ゆるキャラが流行していて、市のPRキャラクター「つなが竜ヌウ」は見沼田圃など環境を大事にしていることを表しているようですので、こうした日本のアニメ文化、ゆるキャラ産業からヒントを得られるかもしれません。

○**森本委員** さいたま市に住んでいる人へのアピールがある一方で、市外からの見方もあると思います。かつて宇都宮大学の学生にアンケート調査をしたところ、さいたま

市は東日本の玄関都市というイメージが非常に強くて、宇都宮と比べ大都会である一方で、都会と田園風景が融合したまちというイメージもありました。こうした外から見たイメージを参考にしたキーワードによって、さいたま市らしさを出せるのではないかと考えます。

○部会長 首都圏で見ると、業務核都市は横浜、川崎、千葉、幕張などたくさんありますので、都市間競争の中では差異をつけなければならないと思います。まさに東日本の玄関都市として、さいたま市の良さをいかに伸ばし、産業や生活をいかに特徴づけるか、違った視点で見ていくことも大事だと思います。また、農地があることが最大のポイントで、それをいかに表現していくかが課題でしょう。

○丸山委員 先ほどから、さいたま市らしさが強調されていますが、浦和や大宮という名称が付く駅はたくさんあるように、両者はさいたま市の中心的なまちであり、そのことが息づいた生活者のスタイルが生まれているのではないのでしょうか。そのことも考えて、さいたま市らしさという言葉が生まれてくると面白いと思います。

○部会長 ある意味、従来の大宮、浦和というツインシティに関する事で、さいたま市のブランドもありますが、都心としての大宮や浦和もあるということかもしれません。

○副部会長 重点戦略として思い付いたことですが、一つは、農村と大都市が隣接していて、交通と特色ある企業が集積していることを生かして、交通と産業が融合した東日本のグローバル拠点を実現できると思います。

もう一つ、先ほどEVやスマートハウスについてお話しましたように、次世代型生活文化都市とすると、さいたま市の特色のあるものになるでしょう。

それから、安全安心や防災が不可欠で、見沼田圃、農業、環境という特色があるので、防災と組み合わせても良いので、何か重点をつくりたいと思います。また、やる気になれば、新しい農業スタイルもできると思います。

○部会長 そうしますと、テーマの5つ目には、環境や農地についても盛り込んでおかなければ、さいたま市らしさが出ないということでしょう。

それから、ライフスタイルをいかに横断的に捉えるテーマとして表現するかが問題です。実は、さいたま市らしさは、もともと強烈にあるものではありません。そうした都市は、自分たちで、そのまちらしさを創っていく場合があります。シビックプライドを表す有名なものとしては「アイラブニューヨーク」があり、また、多国籍なまちの誇りを表す「アイアムステルダム」のように、さいたま市らしさをこれから創つ

ていく、あるいは、既にあるものを磨いていくことができるでしょう。大宮らしさ、浦和らしさもなかなか明確ではない中で、岩槻や与野も合併し、全体として、さいたま市らしさを語ることは難しくなっていますが、むしろ自分たちで創っていけば良いものだと思います。

○上田委員 私は、さいたま市らしさには疑問があります。重点戦略に書いてあることは、どのまちにもある普通のことなので、普通であることを強調すれば良くて、そのことによって、さいたま市らしさを出せば良いと考えます。

○部会長 普通のまちとは何かというと難しいのですが、そういう見方もあるでしょう。重点戦略ですので、もちろん市民と共有するという意味合いもありますが、庁内でも共有して予算配分や職員配置が必要になるでしょう。

コミュニティについては、今までも議論されてきたことですが、コミュニティデザインや地域のガバナンスも含めて、トップダウンでなく、地域ごとに考えていくことが、さいたま市の次の展開のあり方としては重要です。重点戦略4のように、コミュニティについて安全安心とセットにして良いのかどうかは議論が必要でしょう。

それから、観光については、例えばスポーツや自転車など、今後取り組むことを、あえて戦略として打ち出すことも考えられます。

○副部会長 例えば、創造をキーワードとすると、分野としては、環境を創造する、健康を創造する、コミュニティを創造するという表現が考えられます。産業政策をどこに入れたら良いかは悩んでいるところです。

○部会長 あくまでも戦略ですので、総花的でなくても良くて、例えば、環境、健康、観光、コミュニティなどとするのが考えられます。

○副部会長 観光と言うと、かつては外から人を呼ぶイメージがありましたが、今は、内の人を楽しみながら外からも人を呼ぶというような双方向の環境づくりが大事で、観光の振興と言って良いかどうかは気になっています。

○部会長 以前にも話が出ましたが、120万市民が市内を移動するだけでも、ずいぶん違うので、都市内観光を進めると、新しい産業が生まれていくので、まずそこから始めることも考えられるかもしれません。観光に代わる言葉があれば良いですが、とりあえず観光として、スポーツ産業なども含めて、当面そこに力を入れると良いかもしれません。

○副部長 観光ではなくて、スポーツ産業など別の言葉で表せると良いので、プロに考えていただきたいと思います。

○部長 ちなみに、さいたま市ブランドについて、事務局が把握している市の動向はありますか。

○事務局 市長が最近ブランディングと言っていて、シティセールスにも関わることで、まずは価値を高めることが必要だと考えています。良いものを見つけ、育て、自分たちも楽しみ、外に発信していくことも含めて、ブランディングが必要で、これからの取組ということです。

○部長 次回までに重点戦略やさいたま市らしさについて考えていただき、次回は意見をまとめていきたいと思っています。調整部会では、我々の分野からもぜひ重点にしたいことがあれば挙げていきたいと思います。

この後は、調整部会の議論を踏まえて、事務局が素案としてまとめて、第5回部会で審議したいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、繰り返しになりますが、今回の資料の修正などについては、私と副部長と事務局にお任せいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○部長 他にご意見等ないようでしたら、事務局からその他の説明をお願いします。

(5) その他

(第5回部会の開催日程について事務局から連絡)

・7月23日(火)午後2時から、ときわ会館5階中ホール

○事務局 次回につきましては、重点戦略素案をご審議いただきたいと思います。

○部長 次回は他に、都市構造と区の将来像についても議題とします。ちなみに、区の将来像とは何ですか。

○事務局 現行計画にもありますが、各区の将来像やまちづくりの方向性を示したものです。区民アンケートやワークショップ、関係団体による検討懇話会でご意見をいただき、庁内で検討をしているところです。

今後については、夏に中間とりまとめをして、パブリックコメントを実施しますの

で、それまでに部会をあと1回開催することになります。

○**部会長** 次回は議題が盛りだくさんになるでしょう。以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。委員の皆様から何かご意見はございますか。

(意見なし)

○**部会長** それでは、他にないようですので、これをもちまして、本日の議事は終了させていただきます。委員の皆様のご協力により円滑な議事進行ができましたことをお礼申し上げます。

4 閉会

以上